

日本キリスト教団武蔵豊岡教会

入間市河原町8-6

国道16号沿いにそびえるこちらの教会は、かの有名な建築家・ウィリアム・メレル・ヴォーリズ的设计のもと、1923年に建てられました。日曜日になると、たくさんの人が礼拝に訪れます。



ここに注目！ 3つのポイント



①恵みの座

キリスト教では、恵みの座と呼ばれる柵の内側は神の国であると考えられています。最近では恵みの座があること自体珍しいようですが、こちらは当時のままで、これまで訪れた数多くの信徒さんの想いがしみわたっています。当時の技術では、この素晴らしい曲線美を作り上げるためにさぞかし長い時間がかかったことでしょう。

②折り上げ格子天井

地元の大工さんが作り上げました。しかし設計図の段階では、伝統的なゴシック建築のシザーストラスだったため、来日したヴォーリズはびっくりしたんだとか。



③奇跡の窓

礼拝堂の2階にある窓です。窓枠はもちろん、ガラスまできれいに残されています。大正時代の手彫りの模様が素敵です。平成26年に大規模な改装工事が行われた後も、唯一当初の姿が残された貴重なものです。



他にも…



礼拝堂です。

当初は500人収容といわれていましたが、日本人の体格も変化したため、現在は収容人数が多少少なくなっています。

礼拝堂のシャンデリアです。

昨年の改修で、当初のイラストをもとに再現されました。

戦中に回収されてしまったり、違うデザインのものが飾られていたりした時期もありました。



礼拝堂の窓です。

大きな窓からは、たくさんの光が差し込みます。

昨年の改修で、1つ1つの大きさが少しずつ違うことが判明したそうです。

説教台横の扉です。

礼拝堂と同じ形をしています。現代の一般的な扉よりも低めに作られているような印象を受けました。



礼拝堂 2 階のステンドグラスです。

聖書の内容にちなんだ色彩豊かなデザインは、信徒さんによるものです。

改修工事で建物自体を回転させたため、現在は午前中に光が差し込みます。2 階に上がって近くで見ると良いですが、1 階から遠目に眺めると、とても幻想的です。

元々は普通の窓で、高い位置で換気をする役割を果たしていました。



写真の上の方に注目してみてください！

かとうまどと呼ばれる日本風の造りになっています。その下には西洋風の柱が伸びています。

和と洋のマッチングが何とも言えません。

礼拝堂 2 階の階段横の柵です。実はこの柵の高さは、膝あたりまでしかありません。

恵みの座と同じく、細い部分の中心部は角がとられています。



祭壇の聖卓の彫刻は、百合の花を模ったものだといわれています。

こちらの教会に十字架は少ないのですが、代わりに復活のイエス・キリストの象徴である百合が所々に散りばめられています。



左は資料室の棚の扉です。ギリシャ文字のアルファとオメガを組み合わせせたものがつけられています。アルファは始まり、オメガは終わりを表し、神の永遠性を示唆しています。

右は外の塔についたレリーフです。資料室のものと同じ、アルファとオメガが形取られています。



資料室の扉です。

よ〜く見ると・・・
「神八愛ナリ」の文字が！！

一体誰が彫ったのでしょうか？
カタカナが使われているので、ひょっとしたら
ずいぶん昔の人なのかも・・・！？

かつて教会で使われていたオルガンです。

現在でも、演奏会等の際には、このオル
ガンを使うことがあるそうです。



両端には燭台がついています。



ペダルの彫刻も素敵♪



レバーも可愛い♡



中はこんな感じ↑

2015年8月 訪問
埼玉モダンたても学生レポーター
日本女子大学文学部 竹田いづき